宗像

毎月十五日発行
発行所
宗像大社
宗像社
〒811-35 福岡県宗像郡玄海町
電話 0940-62-1311代
定価 一年送料共 1000円

神具、装束
結婚式場用品
株式会社 井筒
九州店 福岡市博多区東公園一三一（〒八一二）電話福岡（〇九二）六五一九四五六番
本社 京都市下京区油小路六条北入（〒六〇〇）電話京都（〇七五）三四一三三四一（代）～四番
三四三一三三四一番

終戦四十年を迎えて

宗像護国神社 戦没者慰霊祭斎行

〝昭和二十年八月十五日〟、日本国民にとっては決して忘れてはならない日である。日本の歴史上初めて外国に対して降伏するという屈辱を味わった、あの大東亜戦争が終結した日である。

終戦当時の日本は政治・経済は潰滅的打撃を受け、国民は衣・食・住に困窮し全く国家としての機能は失なわれた感であった。しかしながら国民は不滅の〝大和魂の心〟をもってこの困難に耐え、今日では世界に冠たる国家として、世界人類の平和に寄与している。

今年は終戦後四十年目を迎えて、全国各地に於いて、英霊並に戦争で犠牲となられた一般国民に対し、哀悼の意を表する戦没者慰霊の式典が、例年にも増して盛大厳粛裡に執り行なわれた。

宗像市・郡出身の二四〇〇柱の英霊を合祀する宗像護国神社に於いても、八月十五日午後七時より「戦没者慰霊祭」の祭典と英霊を供養する「千灯明」が厳粛に斎行された。

今年は例年にも増して猛暑の続く毎日であったが、十四日午後より時々雷光を伴う強い雨が降り、十五日は朝から降り続く最悪の天候であったが、夕刻になると小雨になり、祭典が始まる七時前には夕陽が輝き、参列者一同「英霊の御霊が晴天にされた」と深い感銘を受けていた。

祭典は定刻の午後七時より宗像大社の境内地に鎮座する、宗像護国神社本殿の神前に於いて、宗像大社祢宜宗像清文を祭主に大社神職四名奉仕。宗像市・郡遺族会の出光大蔵、縄田才蔵両会長以下遺族会、同婦人会々員並に玄海町の和田延広町長、広橋和吉町議会議長、又地元田島区の高向辰馬区長以下区民、田島区児童育成会の吉武宏会長以下役員並に児童八十名等、参列者二百余名参列のもとに遅滞なく厳粛に執り行われた。

祭典に先立ち地元田島区育成会の児童によって、正面参道両側五〇米に特設された灯明と灯篭に火が点され、真夏の真赤な夕陽が玄界灘に沈むと同時に境内には、千灯明の光りが輝きを増し、霊光霊験な幽幻の境となり参列者一同、御祭神の英霊に対し慰霊の念と、四十年後の今日の幸福を感謝する念が一層深まった。

祭典終了後、境内に於いては育成会児童による子供花火大会と田島区住民による供養盆踊り大会が盛大に行われた。子供花火大会は育成会父母により児童一人一人に、打上花火、線香花火等多種多様な物が渡され境内のあちこちで花火の光と音と児童の歓声が上がっていた。

供養盆踊り大会は本年初めて行われたのである。高向田島区長以下住民総意に依り婦人部が中心となり何日も温習会を開きこの日に備えた。田島区ではここ数十年来盆踊りが途絶え、初盆を迎える家に於いても昔ながらの供養踊りが諸般の事情によって行なわれなくなって久しく、今年、地区住民総意で復活されたのである。太鼓に代りカラオケ機、音頭に代りテープ歌謡、踊りも昔ながらの地域性のある踊り方から、現代の演歌・民謡の流行歌に振り付けされた踊りとなった。

住民老若男女挙げて心と体を一つに合せ真夏の夜を心ゆくまで楽しむ姿は、時代は進み住民個々人の生活風習、主義主張は違ってきても、事ある時は心身共に一体となって祭事に取り組む「神郡宗像の地域住民の心は一つである」と往古から言い伝えられてきた言葉が、改めて強く感じられた。

年々戦争体験者も減り戦禍の跡も消滅し、今日では国民の半数以上が戦後に誕生した世代で占められ、戦争の恐怖、生活の困窮、言論学問の制約等の体験も無く、個人主義を謳歌する傾向の時代となっていく中で改めて、国と国、人間と人間が闘うことの恐しさ、空しさを認識させ、子々孫々に至るまで永遠に忘却することのないよう、日本国民であるならば主義主張を問うことなく「昭和二十年八月十五日」のこの日を下して、国家並びに国民の為に身体を賭して戦い没した英霊に対し、又、戦禍に犠牲となられた祖先に対する慰霊の心と感謝の念を、その時代に生きる国民の義務として、表わしていかなくてはならない。

靖国神社の公式参拝成る　㈠

大東亜戦争終結から満四十年の八月十五日。畏くも天皇陛下は、九段の武道館での全国戦歿者追悼式に臨ませられた。終戦の大詔で、「帝国臣民ニシテ戦陣ニ死シ職域ニ殉シ非命ニ斃レタル者及其ノ遺族ニ想ヲ致セハ五内為ニ裂ク」とおおせられた御心そのままで「堪へ難キヲ堪へ忍ヒ難キヲ忍ヒ」ての御心労の四十年間の長きを経て今日を迎え給うた陛下の御姿を拝して、感無量のものがあった。

この日、靖国神社の境内には全国から集うた遺族や、戦友たち、また一般市民などの姿が早朝より続々と見られ、終戦四十年という節目を迎えてその数は例年より一段と多かった。内閣総理大臣中曽根康弘氏は、多年の国民大多数の要望にこたえて、靖国の英霊に対して、「公式参拝」の礼を行った。

○

内閣総理大臣の靖国神社参拝は、事実上、すでに約十年来の慣例となっていた。

今回、政府が「従来の行政統一見解を変更」することを表明して、参拝したことは、満四十年の記念の日として、一つの大きな前進として銘記されてよい。長年月の公式参拝要望のために、努力されて来た人々に対して、深く敬意を表したいと思う。

○

なぜこのような国民大衆の悲願要望を実現するに、かくも多年の時を要したのか。それは現憲法とその解釈についての法制局見解のためであった。

もともと、現憲法は、日本国が占領下にあって連合軍権力の圧力下にあった異常の条件下に立法された。この立法の第一級責任者である上院憲法改正委員長の安倍能成は、憲法成立後の十月八日朝日新聞の紙上において、自ら審議したこの憲法が、「不備欠陥多きもの」であると公然と告白しながらも、その可決をもとめた。

このように委員長自らが「つくづく改正憲法の不備、欠点、未整、不熟をも感じた」と述べている憲法を解釈するのに、法制局も学者も困難を感じた。それは、憲法を実質的に「国の最高法規」として、国民良識によって解釈することが困難で、慶法の上位にある占領軍権力の諸命令（指令）にしたがって、解釈せざるを得なかったからである。これらの二重の変則的条件下にあった法制局の法解釈が、独立を欲する国民の良識に不満なものであったとしても、それは「堪へ難キヲ堪へ忍ヒ難キヲ忍」ぶべきやむない理由もあった。

（以下次号へつづく）

（神社新報より）

余滴

「バッカリ派」と「マゼコゼ派」、テレビを見ているとこんな文字が出てきた。これは現在、学校給食等を通じて見られる子供達の食事マナーの分類で、まず最初から好きなおかずばっかり食べて、最後に御飯を食べる。または最初に御飯を平らげてしまって次におかずに箸をつけるというのがバッカリ派。これとは対照的に御飯、おかずを適宜に混ぜながらバランス良く食べていくのがマゼコゼ派。そして現在、過半数の子供達がバッカリ派ということである。

むかしから我が国では食事作法はうるさくて、渡り箸、探り箸、舐り箸、迷い箸等々、無作法を戒める言葉が多く、御飯とおかずはバランス良く終らせるようしつけられた戦前派大人達の目には、このテレビに紹介された現代っ子の食事マナーはショックであった。

戦後の教育では人間性の尊重に重点が置かれ、人間らしく育てることに力がそそがれている。その結果、自由闊達、個性豊かな青少年が多く見られるようになったが、反面、欲望のおもむくままに行動する無軌道な若者が激増している。人間性という美名のもとに放縦な欲望の発散が放任されているように思えてならない。単なる食べるという行為の中にも最少限守るべきマナーと品位を自覚させる躾教育は必要ではなかろうか。神社祭式は古くから「右のものを左とせず、左のものを右とせず」と厳しく守られている。一見、時代と隔絶した無意味なことのように思えるかも知れないが、日本人の行儀作法の原点として絶対に崩すことの出来ない非常に重要な意味を持っているのである。

第二九〇回 宗像大社歌会詠草

中村吾郎 選

毎月末日〆切

深田 中野 節子
緑濃きみ寺の森に毬栗の一きは耀ふ豊作ならむ
（評）初句は適正を欠く。毬栗の青い耀きを今少し鮮明にうち出せば結句が自ずから更に生きてくる。

大島 板矢あきえ
いくつもの古巣残して飛び去りし燕の見えぬ今日を寂しむ
（評）上句の具象は端的で適格。下句が弛んで見える因はどこか？。三句で一応切るべきではなかろうか。

池田 永富 臻
境内に入り来る稚児の列のなか烏帽子かたむくわれの孫見ゆ
（評）四句までは描写鮮明で動きもある。が五句に於て落ちこんでしまった。在りきたりの表現であろう。

大島 目原 節子
八十の終に苦痛を解かれたる安けき兄に菊花をうずむ

自由ケ丘 後藤君代
丘の上の骨なき墓に今日は来ぬ四十年は茫々と過ぎ

東郷 藤崎 辰子
わが庭の木に蝉をとる子供らに音しのばせて柴折戸開くる

大島 中村さつき
長雨に思ひのままに伸びし草われ植えし韮は小さく縮む

香椎 桜井 ツ子
まどかなる月竹群の上に残る午前五時われは草刈鎌を研ぐ

原町 中村 幸
われひとり座席につくを見定めてバスの運転手発車と言ひぬ

吉留 白木うめの
店頭に下れるうす茶のプラウスを吾にも似合ふと見て通り過ぐ

大島 屋形とみえ
六人の孫帰り来ぬひねもすをくつろぐ間なく汗ぬぐひをり

大島 本田よしえ
切り岸に潮風受くる山萩は厳しき自然に耐えて咲きをり

大島 大島 勝代
寺庭の静寂のなか合歓二木花あはあはと浮きたちて咲く

遠賀 新田 香織
月下美人を月に貸でをり紫蘇に染む五十のこの手亡き母に似る

日の里 清原 絹代
牡丹園みつつ奥の院の道藪うぐいすの一声徹る

徳重 石松や寿子
赤き実をつけたるままに万両はこぼるるばかり白き花さく

通堂 木梨ヨシノ
立ちゆかむ五羽の燕は朝早く屋根の上にて辺り見廻す

田久 立花 勇雄
電線に楽譜の如く並びぬる雀はばたきて位置をかえゆく

宮田 片山 朔子
朝の日をうけてすがしく咲き始めしアメリカ芙蓉の大輪を撮る

田熊 力丸 一郎
有明の大潮ひきて四、五隻の小舟はひがたに居座りてをり

武丸 原田まつ代
今日も又母屋の末中に足のばし昼寝せる猫何の夢みる

原町 塩川ハルコ
全力を尽くして戦う球児らの勝つも負けるも潔き涙す

武丸立 石ろせ乃
あかね雲次第に薄れ暮れゆきぬ畑隅に白き人参の花

鐘崎 岩瀬 辰夫
京城のテレビ懐し南大門今も見事に蔦紅葉這う

秋季大祭いよいよ間近

――海上神幸の御座船も決定――

本年も当大社秋季大祭・宗像放生会が近づいてまいりました。

例年の如くその初頭を飾る海洋神事（みあれ祭）の打ち合せ会を、去る九月二日斎館にて開会した。

残暑酷しい中、郡内七浦六漁協より各漁協組合長並びに参事・水難救済会各所長出席の下、当大社宮司以下職員との熱心な審議がなされた。

本年も海洋神事に参加する船団は、十月一日午前九時三十分に大島港を出港、約一時間の海上神幸の後、神湊港に入港の予定となった。編成は先導船に神湊と地ノ島漁協、御座船は沖津宮御神輿を鐘崎、中津宮御神輿を大島の各漁協所属の最新造漁船とし、以下各漁協の漁船が供奉船として従うことに決定した。

また、海上神幸に先駆けて行われる沖津宮御神輿迎えは、来る九月十六日に大島漁協所属、第三沖栄丸古賀利久船長十六屯によって行われることとなり、十月一日の御座船には、日光丸広橋利信船長十七屯（鐘崎）、第三沖栄丸古賀利久船長十六屯（大島）の各船が選出、決定された。

打ち合せ会では漁協側より、御座船・先導船・供奉船の各旗の傷みがひどいので、本年は全て新しくする様要望が出され、協議の末今回の海上神幸では新しい船旗が掲げられることとなった。往時の宗像水軍の威容を彷彿とさせる海上絵巻も、色鮮やかな船旗により、本年は一段と勇壮なものとなるであろう。

秋季大祭の準備は着々と進み、整いつつあるわけだが、御神幸に幕を開け地元青年団による風俗舞、女子中学生による浦安舞、当大社御神宝である翁面を付けて喜多流の人々が奉納する翁舞外、流鏑馬神事、相撲大会等の神賑行事に彩られ、宗像地方の人々あげての国家安泰・大漁満足・五穀豊穣を祈念する華やかなお祭りが、今年も愈々始まろうとしています。

宗像大社秋季大祭（宗像放生会）御案内

当大社秋の大祭を左記の行事日程で斎行致しますので、皆様お誘い合せの上ご参拝下さいますようご案内申し上げます。

昭和六十年九月吉日

宗像大社宮司　葦津嘉之

記

九月三十日
午後五時　総社地主祭
午後六時　宵宮祭

十月一日
午前八時三十分　中津宮出御祭
同九時三十分　大島港出港　海上神幸
同十時三十分　神湊港到着
同九時　辺津宮出御祭
同十時四十分　頓宮祭（雨天中止）
同十一時　頓宮御発輦
同十一時三十分　辺津宮入御祭（風俗舞）

十月二日
午前八時　流鏑馬神事
同十一時　例大祭（氏子奉幣・翁舞）奉納相撲
午後二時　末社祭

十月三日
午前十一時　総社祭（浦安舞）
午前十一時四十分　高宮地主祭・高宮祭　宗像護国神社秋季大祭
第二・三宮祭
午後二時　献茶祭（南坊流）

✽尚、大祭期間中三日間臨時バスが運行されます。

【授与品紹介】身体用御守 (11)

◇十二支えと守（じゅうにしえとまもり）

今回は、当大社で授与しているえと守を紹介します。最近社頭に於いて、「これは何のお守りですか？」と聞かれるのが〝えと守〟である。〝えと〟とは、今日十干十二支の事を俗に言っているが、もともと、この思考法は支那の殷の時代より盛んになり、一カ月を十日づつ、上中下旬に分けたり、一年を十二に分けて生活の基準にしていたものである。この後五行説が生れ、十干十二支が五回巡って一巡する六十支が出来、それに強弱をつける為、〝兄弟（えと）〟の思想も組込まれていった。これが今日総称される〝えと〟である。十二支に動物の名を宛てったのは、日本に於いて便宜上なされたに外ならないが、現在では、最も親しまれているようである。当大社の〝えと守〟は、天然石製との二種類の〝えと守〟がある。それぞれに十二支の絵が納められ、紫と朱の組紐には、可愛い鈴が付き澄みきった音〝である。

一体　五〇〇円

――◇――◇――

✽お車の交通安全祈願祭とお祓をご希望の方は授与所受付にお申し出下さい。

祭典初穂料は次の通りです。

一、大型車・特殊自動車　一台　五、〇〇〇円也
一、普通車・軽自動車　一台　四、〇〇〇円也
一、自動二輪車・軽車輌　一台　三、〇〇〇円也

✽祭典を申し込まれました方には、

一、交通安全守札一体
一、安全ステッカー一体
一、神宝館拝観券一枚
一、撤下供物

を授与致しております。

✽遠方にお住いの方、参拝不可能な方には郵送による交通安全祈願の祭典並びに交通安全守札授与の受付を致しております。

詳細については左記へお問合せ願います。

〒八一一―三五
福岡県宗像郡玄海町田島
宗像大社々務所
祭儀部賽務課
TEL（〇九四〇）六二―一三一一

交通安全キャンペーン　交通事故撲滅を願って

恒例の「交通安全キャンペーン」が、今年も八月十三・十四日の二日間、九州自動車道古賀サービスエリアに於いて、フクニチ新聞社の主催、又宗像大社を始め、県警高速道路パトロール隊、日本自動車連盟九州支部等の後援・協力により行われた。

通行する車は、故郷を目指してハンドルを握る、帰省の人々の車が目立ち、特に今年は例年になく猛暑が続いた為、長距離運転のドライバーや同乗者も、いささかうんざりといった様子であった。

アスファルトの照返しが強い、この猛暑の中、キャンペンガールや当大社の巫女、パトロール隊員達も交通安全の為奮闘、冷めたいおしぼりやキャンディーを、又交通安全のお守りを

サービスエリアの出口で、一台一台に手渡し、安全運転を呼びかけた。

最初は何事かと、とまどいの表情だったドライバー達も、「お疲れさまです、どうかお気をつけて」の呼びかけに、笑顔で答えていた。

今年九月一日からは、高速道路でのシートベルト着用義務が法制化される為、パトロール隊員達も、シートベルトの着用を熱心に指導していた。シートベルトの着用率は、一般道路ではまだ低いものの、さすがに高速道路では高く、「シートベルト着用運動」がドライバーに着実に浸透しているようであった。交通事故のニュースが絶えない今日、国民一人一人が安全運転を心懸け、事故撲滅につとめたいものである。

〝清明殿〟扁額修復

当社「清明殿」の表玄関扁額が金色のいろあざやかに修復された。

この〝清明殿〟の書体は福岡県が誇る政治家、広田弘毅氏の揮毫である。氏は明治十一年福岡市に生れ、東大政治科卒業後外務省入り欧米局長、オランダ駐在公使、駐ソ大使等をへて、昭和八年斉藤内閣の外相、岡田内閣にも留任し、昭和十一年の二・二六事件直後の内閣を組織し、日独伊防共協定を締結するなど非常時体制の確立に努められた日本を代表する政治家である。近衛文磨内閣では外相に就任された。しかし第二次大戦後、極東国際軍事裁判で、文官中ただ一人A級戦犯として処刑されたことは周知の通りである。

この〝清明殿〟は昭和十一年に修養道場として建設された木造銅板葺、七十五坪の建物である。この建設を祝して広田氏が揮毫されたもので、その力強い筆の流れに人格をしのばせるものがある。現在結婚式場として使用されている清明殿であるが、玄関上のこの扁額を意識する人は少なく、長年の風雪により書体はすっかり色あせていた。この度福間町駅前の塗装業〝とりいやスタジオ〟松岡勇氏の御好意により見事に修復された。墨痕淋漓金色に輝く書体は緑の境内に一段と映えて、歴史の変遷を静かに見守っているかのようである。

故出光佐三翁をしのぶ

＝宗像市で生誕百年記念式典＝

神郡宗像の誇る大実業家、出光興産株式会社の創業者・故出光佐三翁の生誕百年記念式典が去る八月十七日、宗像市中央公民館で開催された。

この式典は宗像市商工会青年部が結成二十周年記念事業の一環として催したもので、出光翁の日本的思想経営と生きかたを学び、これからの新しい宗像の人づくりの一つの指針にしようとするものである。

式典には約三百人が参加した。宗像大社宮司葦津嘉之、福岡県議会議員伊豆善也、宗像市長天野敏樹氏等が生前の出光翁をしのびながら挨拶された。

また、西日本新聞社編集局長滝口凡夫氏の「出光佐三翁と宗像」と題した講演があり、佐三翁の日本人としての人間のあり方を教えられ参加者一同深く感激した。

講演のあと、出光翁をモデルにした映画「日本人」が上映された。十八、十九の両日には同市赤間の生家も開放され、創業時に翁が使用された机などの遺品、写真などが公開展示され終日観覧者で賑わった。

神郡社寺めぐり (11)

八幡宮（福間町本木）

宗像郡福間町役場前の交差点を左折し、県道三〇号線を飯塚に向って車で約十分くらい走ると本木の集落に入る。旧西郷村大字本木字大浦にある「八幡宮」に参拝した。

本木八幡宮は集落のほゞ中央にあたる、県道三〇号線の道路ぞいに境内が広がっている。

直径約三・四メートルの大銀杏が左右にある。あまり広くはない境内だが、時の流れをしのばせる滴、杉、等の巨木が多い。

正面大鳥居から約五十段余の石段を登ると本・拝殿がある。右手に宗像四国西部霊場「本尊＝薬師如来＝木木第六十七番」と記された小さなお堂があり、中央高座に「薬師如来」が祭られている。

本・拝殿は古い建物である、流造りの本殿周囲には美しい龍、獅子、牡丹等の彫刻がほどこされ、拝殿内には数十枚の絵馬が奉納されている。色あせた絵、近年に長寿を感謝して奉納された絵馬が多いのも土地の信仰の深さがうかがえる。

この八幡神社の祭神を見ると、

一、誉田天皇　神功皇后
　武内大臣　とある。

又由緒記には、当社は宗像七拾五社の其一にして、此村の氏神なり。宗像末社に本木若宮と有は、則此社なり。

一説に鞍手郡若宮八幡宮を勧請と伝ふ。七拾五社は往古より鎮座にして、年中六度祭典厳重なりしか、今は村民共、形計ノ祭祀す。明治五年十一月三日村社に被定。例祭九月廿八日。

さらに、歳山神社、大歳神社、秋葉神社、雨龍神社、貴船神社の六末社が並んでいる。この本木村の名称を調べて見ると「筑前国続風土記拾遺」に次の様に記されている。

本木＝俗説に往昔此社（本木村字萬歳丸鎮座の天満宮）の楠の木を伐て、大日の像三体を彫刻す。其本にて作るを此村河内に安置す。依て村の名を「本木」＝モトギといふ。末にて刻めるは粕屋郡須恵村に置、中なるは那珂郡那珂村にといへり。其木の根株朽残りて今に在。又大木の棟樹もあり。……云々、

この本木地区は、国道からも離れ、しずかな農村地である。社前には青々とした水田があり、秋の取り入れを待っている。山々は緑深く水は清い。降る様なセミ時雨の中に社殿の千木が美しかった。

又「筑前国続風土記附録」によると、八幡宮、村の西北三町許、山の半腹に有。産神なり。祭る所誉田天皇、神功皇后、武内大臣也。鎮座の年歴伝うる事なし。社内に祇園社、薬師堂あり。境内林中に大石一箇（高二尺、周五尺）あり。皇后の御腰懸石といふ。神田八畝二歩有。字をジンデといふ。と記されている。この皇后腰懸石を境内で見る事が出来なかった。本殿裏山は巨木の繁みが深く、この中のいずこかにあるのであろうか？。

本殿左手に祇園社があり

宗像医師会病院起工式斎行

――神郡宗像に総合病院を　市郡民挙げての願いここに実現――

宗像郡・市民待望の総合病院が社団法人宗像医師会（会長＝石川秀雄氏・会員一〇三名）によって、その名称も「宗像医師会病院」として、宗像市田熊字平井に建設されることが決定した。

この宗像医師会病院の建設起工式が九月一日（日曜日）の大安吉日に現地に於いて、午前十時より厳粛盛大裡に執り行なわれた。

式典は定刻の午前十時より当大社神職一名奉仕により起工の神事を、宗像医師会の石川会長並びに会員多数、県会議員伊豆善也・小山達生両氏、宗像市々長天野敏樹・玄海町長和田延広氏並びに三ケ町村長等来賓多数、建設業者の三井建設㈱九州支店以下関連会社代表参列のもと、工事安全、竣工を祈念して、厳粛に式次第も遅滞なく終了した。

祭典終了後、宗像市田熊町の宗像医師会館に於いて、直会の儀が盛大に催された。先づ、神饌の御神酒を土器盃に移し、奉仕神職の音頭によって乾盃、続いて石川会長の挨拶が行われ、来賓各位の祝辞のあと祝宴となったが、参列者一同長年の懸案であった郡・市唯一の総合病院の設立が実現した喜びで祝宴も和気靄々の中に正午過ぎ万才三唱をもって閉会した。

「神郡宗像に総合病院を」と数十年来より宗像郡民挙げて願い続けて来た病院が遂に社団法人宗像医師会の肝入によって実現の運びとなったが、これまでの間に種々の難関があったことは郡民誰しも承知のことであった。郡・市住民にとって往古より「郡民の心は一つと行政・産業・文化等に一体となって取組み、その精神的なよりどころとして宗像大社が重要な役割を果し神郡宗像」と言われてきたが、郡民の健全な身体を守るところの「住民が安心して身体の治療が受けられる総合病院」がなかったので、今度の宗像医師会病院の設立によって宗像郡・市住民は心・身両面にわたって大きな寄りどころが出来、名実ともに「宗像は一つ」になったのである。

宗像医師会病院は、現在宗像一市四ケ町村で運営されている、宗像休日急患センター（宗像市平井）の南東側山地を造成、敷地一三、〇〇〇㎡に鉄筋一部三階、地下一階、延床面積四、五〇〇㎡の棟屋を総事業費九億三〇〇〇万円（建物関係約七億、医療設備関係約二億三〇〇〇万円）かけて昭和六十一年九月に竣工オープンする。

当初は、入院定数一〇〇床、医師六名、看護婦二十五名、技師、調理師等三十名で運営する。診療科目は、内科、外科、小児科の三科と、外来だけのリハビリ、泌尿、糖尿病等を週二、三日診療する準総合病院でスタート、将来はベッド数二〇〇床、二十四時間診療体制の総合病院として運営される。

建物は、一階が外来診療、事務管理室に各種検査室。二階が手術室、集中治療室、入院病棟。三階はリハビリ室、機械室。地下一階は調理室と機械室からなっている。

環境的には県道宗像～玄海線の国鉄東郷駅東口バス停から一停留所の大井台バス停下車徒歩三分、周囲を緑の松林にかこまれた小高い丘の中腹の静閑な場所にあり、医療施設環境としては最適である。

前述の通り宗像市郡（一市三町一村・人口約一二万人）には単科目診療病院は多いが総合的診療病院がなく、住民の大多数は診療入院の必要が生じた場合は、福岡市、北九州市の医療体制の整った病院へ入院先を求め、患者並に家族に精神的、肉体的、経済的に多大の負担をかけている。宗像市郡は福岡、北九州市の衛星都市として居住人口数は更に増加の傾向にあり、今度の宗像医師会病院の設立は、住民にとって心強い限りである。

今日、医療に関しては様々な問題がマスコミを通し国民に報じられているが、神郡宗像にあっては医療に関係する人々が一体となって、地域住民の為に健康福祉に寄与することが、石川会長の「長い間宗像の皆さんの要望期待に添えませんでしたが、本日ここに医師会病院の設立が決まり起工式を迎えたことは医師会全員の喜びであります。今後は医師をはじめスタッフ並に器材設備の充実を期し、一日も早く住民のお役に立つ病院としていきたい」との言葉から、市郡内で開業される医師名位の気持が表わされており、住民にとっては安心して治療が受けられる証しである。

―インカの響き―　南米の音楽に魅せられて　(7)

奈良正倉院の奥蔵に「排簫（はいしょう）」という楽器が眠っています。この楽器は、今から約一千三百年前、中国から伝えられた「雅楽」の楽器の一つで、当時は雅楽演奏の中でも度々用いられたと推察されますが、いつの頃からか忘れ去られた幻の楽器となりました。

「排簫」とは、竹を並べた楽器という意味ですが、悠久の時代をへた現在でも、雅楽演奏には欠く事の出来ない楽器「笙」も、この排簫と同時代に日本へやってきた楽器です。同じように竹の管を寄せ集めたこれら二管の雅楽楽器は、長い月日、時代の変遷とともに実に対照的な運命を辿ったと云う事が出来ます。

「笙」は、桐木の台（オワン型）に十七本の竹が差し並べられていますが、この一本一本の竹には小さな指穴が設けられ、竹の基に銅のリードが固定されています。奏法はハーモニカと同様に、息をすったりはいたりしながら、それぞれの指は交互に指穴を押えまれてみます。

パンパイプは、ギリシャ神話の中で牧羊神の手にしている笛です。

神話でみる牧羊神パンは、奏法的には非常に難しい楽器ですが、調律されたリードからは一千数百年前の神秘な音色が生まれます。この笛は、南米のシーク、西洋のパンパイプの姿に似ている処から同じ仲間と思いますが、これらよりも一段進歩した素晴しい楽器と云えます。

西洋の神話パンの笛にふれず、その葦から笛を作り慈しんだのがパンの笛の神話です。

話が横道にそれましたが、南米のシークは、ケーナと並んでアンデスの笛の中でもひときは幻想的、かつ印象的な音色を持つ楽器です。アンデスの高原を吹く孤独な風の吐息のような、それとも遠いインカの歴史の底から吹きのぼってくる声のような、うつろで神秘なその音は、独特な姿とともに、一度触れたら忘れられない笛です。

NHK「おしん」のテーマにはケーナの音が聴かれ、「落つくし」ではシークの演奏がドラマをより一層ひきたてています。NHKではこの南米の笛が大変お気に入りの様です。

今秋には、ボリビアの代表的なアーチスト「サビア・アンディーナ」が来福、演奏会が催されます。きっとメンバーはこのパンの笛、シークをたずさえて、素晴しいインカの響きを披露してくれるでしょう。

エル・フォルクローレ参照

（神島記）

『のしあわび』復活か

＝鐘崎と輪島漁民との交流実る＝

平安朝の昔から献上物として珍重された「熨斗（のし）あわび」が、宗像郡玄海町鐘崎と石川県輪島市海士（あま）町の両漁民の交流により復活のきざしが強くなった。

永禄年間（一五五八～一五七〇）に金ケ崎（玄海町鐘崎）の海士又兵衛ら十三人が加賀藩輪島に渡り潜水漁法を広め前田侯に海産物を献上し、海士の土地をさずかった、これが現在の輪島市海士町であると云われている。日本海を七百キロ超えて、海士（あま）のルーツと呼ばれる鐘崎の漁民とその子孫が開いた海士町の人々が四百年ぶりに交流が復活したのである。

昭和三十年代、鐘崎の郷土史家が海士町に調査に行ったのがきっかけで交流が芽生え、五十一年以来、海士町からも三度の鐘崎訪問を受けた。

八月二十一日、玄海町長を団長に三十六名の関係有志が海士町を訪問した。その折、鐘崎ではすでにすたれている「熨斗あわび」づくりに地元の人たちが取り組み、今夏初めて海士町の奥津比咩（おきつひめ）神社に奉納されたことを知らされたのである。

この熨斗あわびは海士町では明治三十三年に後の大正天皇ご成婚のとき献上したのが最後で今では製法も定かでないと云う。

製作の人々より訪問団に「本当にこういう出来具合でいいものであろうか、ご先祖様のいらっしゃる鐘崎で、本来のつくり方を確認していただきたい」と町長らに託された。

この「熨斗あわび」は長さ約一メートル巾三センチくらいの干しあわびが五本赤白の大奉書ののし折りにつつまれ、金銀の水引きで結ばれている立派な物である。この「復活熨斗あわび一号」は玄海町鐘崎漁協に展示されている。

古老等から、製法などに関する情報を集め、海士町へ連絡するとともに地元でも研究しぜひ復活したいとしている。

「熨斗あわび」は、塩もみしたアワビを、果物の皮をむくようにはいで伸ばし、乾燥させたもので、古来より貴重な献上海産物であった。現在では三重県鳥羽の漁民が伊勢の神宮に献上しているのが知られている。

この「熨斗あわび」の復活する日も近いであろう。

玄海町の和田延広町長も「これが、両町の新しい特産品になれば」と、復活に大きな期待を抱いておられる。

新署長訪問記

宗像警察署　田端智明署長

―最年少の署長さん―

（宗像警察署にて）

宗像の治安を預る宗像警察署の、第六十一代署長として九州では最年少の田端智明警視が、八月二十三日付で着任されました。

田端署長は、昭和三十二年一月十日生の二十八才、昭和五十四年三月に東京大学法学部を卒業され、四月警察庁に入庁、以後神奈川県川崎署、警察庁捜査二課を経られて、昭和五十七年八月に徳島県警捜査二課長となられ、昭和五十九年三月に福岡県警捜査二課長として着任され、今回の異動で宗像警察署長に就任されました。

早速お話しをうかがいにまいりましたところ、「まだ着任そうそうなので」ということわられながらも、「宗像は歴史の古い地域であり、住民の方々も人情に厚く住みよいところでは。又新興住宅が増え、古さと新しさが共有しているのでは」と、宗像についての感想を述べておられました。又警察署長としては「警察は善良な地域住民へのサービス業であり、この基本的精神を常に忘れず住民の方々と接していれば、警察業務もおのずから人々に理解していただけるのではないだろうか」、「地域住民の方々と多く接し、出来る限り早く親しんで行きたい」、「若いということは、ある意味では取り柄でもあるので、明るく活気のある警察署を目指し、住民にとっても親しみやすく、頼りがいのある警察にしたい」、又「万一犯罪がおきた場合は、初期捜査に力を入れ、すみやかに犯人を検挙したい」と抱負を述べられました。

趣味は音楽鑑賞（クラッシック・フュージョン）ということで、どちらかといえば、署長さんというと威厳のある方を連想しがちですが、田端署長さんは、明るく、親しみやすい署長さんでした。

社務日誌抄

八月一日　月次祭
交通安全キャンペーン（玄海町）
八月三日　宮地嶽神社岩下・藤岡権祢宜・国学院大学実習生五名参拝
八月七日　中津宮七夕祭
八月八日　文化庁斎藤調査官・県文化課中矢係長
中津宮本殿調査
八月十日　出光興産㈱兵庫製油所十三名来社、業務安全祈願祭斎行
八月十二日　名古屋博物館神宝返却
八月十三・十四日　交通安全キャンペーン（古賀サービスエリア）
八月十六日　玄海町池野四十四賀同年講参拝
八月十七日　出光興産㈱遠山課長外八名参拝
八月十九日　別府市教育庁社会教育課藤内課長外教育委員会一行神宝館拝観
八月二十一日　宗像警察署井上署長転任挨拶の為来社
文化庁安藤孝一文部技官奈良三彩返却の為来社
八月二十四日　靖国神社鈴木基子氏参拝
八月二十八日　宗像警察署
八月二十八日　田端智明署長着任挨拶の為来社
八月三十日　西日本鉄道㈱電車局々長来社、就任奉告祭斎行

宗像大社歌会 俳句作品集（二七二）

福間　二宮　未子
夕風にゆれるボートの影長く

津屋崎　井浦　良介
台風来るなお光り増す鬼瓦

香椎　板矢　万里
牡丹や野に在る時は花の王

香椎　板矢クニコ
深みどりかみなり雲の去りし山

福間　広渡一寿軒
匙なめて二杯目欲しがる夜の秋

田熊　安部　ゆき
朝の膳日々梅干を珍重す

藤沢　井上　玄洋
父の眉一本白し揚花火

田熊　力丸　一郎
法師蟬夢うつつなる昼寝椅子

津屋崎　西住喜三郎
新涼や山襞浮き出港すぐ

鐘崎　岩瀬　辰夫
神湊の夜景うつくし秋の海

（続）浜の寄物 2

いしいただし

宿泊したのはサンボアンガのランタカホナルである。ランタカとは大砲という意で、昔ムスリムが使った青銅の大砲のことであり、テラスにもその大砲が置いてあった。

ホテルの冷房はフル回転だが、どうも船底にいるようなものすごい音をたてている。外には出たくはない。ホテルの前には物売りや、タクシーの運転手がたむろしている。行動は常に四人でする。食事はホテルから車で街の中心地にある中華系のレストランでした。ビールのサンミゲルで乾杯。油こいい食事とビール・コーラとの付き合いがはじまる。

サンボアンガの夜は、高いビルもなく、雑然として街は、よどんだような感じで全体的には暗いし、外灯も少ない。その暗い中に人がたむろし何やら話し込んでいる。それに雨季でありい湿度の高いムーッとするような暑さで風はなかった。

翌朝、ハーバー・マーケットへ。名の如く港の埠頭付近にある市場で、魚介類、野菜、果物、菓子、タバコ、日用雑貨類なんでも有る。奇怪な貝や魚。丁度、日本の終戦後の闇市場を思い出すような雰囲気であるが、しかし種類は実に豊富である。

果物類もマンゴ、ココヤシをはじめあらゆる熱帯果実が山積みに重ねられて売られている。ただドリアン（悪魔の果物と称され、人頭大、トゲ状の果皮、中にクリーム状の種子にくるまれたものを食する。強烈な臭気がある）は、市場から少し外れたところで、屋台のようなのに乗せたり、ぶらさげて売っていた。強烈な臭気があるのでホテルの持ち込みが出来ないので、そこで食べた。蛮刀のようなので割ってもらった。念願のものだけに私はうまいと思った。他の連中は一・二個食って、「まずい、まずい」私が残り全部食べた。マンゴーも一〇個ほど買った。一個食べれば、げんなりだが、他の連中はこれもあまり食べない。日本であれば一個三～四百円はする。それだけ出すと十個以上はきたようである。吉田よし子氏が「熱帯のくだもの」の中で、「熱帯アジアはマンゴーの宝庫です。旅行したときは、ぜひマンゴーを召し上がって下さい」と記している。

食事を終わって、サンボアンガの前方の海に、大小二島のサンタクルス島が浮かぶ。低平な珊瑚礁の島で、中央部が湿地になりマングローブとなっている。

ホテル前にバンガ（小型のボート）に乗った連中と交渉し、料金がうまく合い、乗ることになった。島との間は、潮の流れが激しく、スペインの航海者達も難儀したそうだが、今のバンガは簡単に渡る。約三十分弱でグレート・サンタクルス島に着いた。白砂というか、サンゴが砕けていて、少しざらつくが美しい浜辺で、ゴミ（プラスチックとかビニールなどはない）がない掃除をしたような海岸であった。海水浴用のバンガローが点々と並ぶ。海岸には誰一人いないと思っていたら、木陰に現地人の行商が清涼飲料を持って寄ってきた。海岸の樹木はモモタマナが多くこの実が浜にたくさん落ちていたし、建物の横に寄せ集められていた。マライ原産で広く熱帯に分布、種子の仁はナッツとして食用にされる。「パラオ島においては種子の仁を無上の珍味とし、酋長就任の披露宴では、この仁を椰子から採って製した砂糖で煮詰め、ジュゴン（備良）の形に作ってこれを皿に盛って出し、小さく切って一同に配分する習慣があるという」（東南アジアの果実）。私は八重山の石垣島川平湾でも見た。

サンタクルス島は海水浴場と、もう一つバジヤウ族の船の墓が有名である。船の先導をしていたムスリム（モロ族・スペイン人は昔ムスリムをモロと呼んでいた。回教徒）の青年に案内してもらった。他の三人は以前、見たことがあるし、貝の採集や交換をするということで私一人で行くことになった。名を、モハメッド・タオップ、真黒な精悍そのもの。私の英語といえは単語と身ぶり手ぶりであった。

古代史探訪 (11)

宗像族の墓域を追う（二）

桜京古墳　玄海町牟田尻字桜京

牟田尻部落は、宗像大社から北の方角に向かって、玄界灘に面した海岸地域の、神湊部落へとぬける中間地点に存在する。この辺り一帯は山陵が張り出した高台地上の村落を形成している。前面は釣川の流れに沿っている。この所より標高約六十メートルの山頂まで丘陵を登っていくと、尾根づたいに約八十基を数える古墳が群集している。この一帯にある古墳群は、殆どが未調査のままである。牟田尻付近の山陵の最頂部であって、古墳群の中でも、最上段に存在する古墳が、桜京古墳と呼ばれている。桜京古墳は牟田尻古墳群の一角にあたり、最南方部に存在している前方後円墳である。現在牟田尻古墳群では、前方後円墳は、桜京古墳の一基が判明しているだけである。

昭和四十七年五月、福岡教育大学の考古学研究部の学生により発見された。江戸時代の中頃にはすでに開口されていたようである。副葬品である埋葬遺物は全て散逸し、現存するものをみることが出来ない。石室内部の壁面の一部には彩色が施されており、装飾古墳を形づくっている。昭和四十八年には福岡県文化課によって、埋蔵文化財調査が行なわれている。現在国の史跡に指定されている。古墳内部の保存・保護のために閉鎖を行ない一般には公開されていないが、山陵下の県道沿には標式が立てられており、古墳の位置と内部構造の解説を観ることが出来る。

桜京古墳は全長四十一メートルを測かり、主軸は南北に伸びている。現在、前方部最大幅約十一メートル・長さ十七メートル・高さ三メートル。後円部径二十二メートル、高さ五・五メートルを計測することが出来る。外見から観てもわかるとおり、前方部と後円部との高低差が比較的少なく、墳丘も小型化している。文字どうり考古学上言われているように、古墳時代後期の墳墓に比定することが出来る。前方部・後円部ともに西側は一部が崩れ落ちており、埋葬施設である石室へと通ずる羨道部もわずかではあるが欠損し、羨門の一部が露出している。墳丘は築造当時の姿をよく残しているようであり、石室内も完全で当時のままである。

この古墳の石室は後円部の中央部に構築され、西側には石室への入口である羨道が造られている、横穴式石室を有する前方後円墳である。

石室の内部構造は、前室と後室との二室に分けられた、複室の玄室よりなっている。後室の奥には死体安置の場所でもある石屋形（いしやかた）が作られている。この石屋形の三ケ所に彩色が施こされている、装飾古墳である。

玄室内は全長七・五メートルを測かる。前室は二・二メートル×一・四メートル、高さ一・六メートル。後室は四・〇メートル×二・四メートル、高さ三・四メートルを計かる長方形状を呈している。後室には壁石を組み上げた上に、三枚の大石を載せ覆いを行ない天井部を作っている。両室共に壁面低部には一枚石をならべて腰石としていき、上部は角礫を小口積に持ち送り式に積み上げている。床面には大小の小石を敷きつめ敷石状にしていたようである。

石室内断面図(A)　平面図(B)

（次号へつづく）

H・M

宗像むかし話 (九)

辺津宮拝殿の扁額奉納者

城戸五助

宗像大社辺津宮の拝殿に「辺津宮」と大書した額がかけられている。これは今を去る約百三十年前の天保八年に、郡内の或る篤志家の提唱によって実現したものである。この人の名を城戸五助定共という。彼は、元和（三百五十年程前）年間以来代々庄屋をしている家に生れた。彼も寛政元年五月から郡内久末村（現在福間町の内）の庄屋を勤めた。同十二年、五月普請才判役（土木監督官）兼帯。

文化二年五月、木木村へ入庄屋。同四年八月、久末村庄屋として帰役、同時に本木村庄屋後見となる。同五年、九月大庄屋役、文政八年に至り、一生苗字名乗りを許可され、同十二年、藩庁より二人扶持を賜わった。天保二年八月に至って、老齢の故を以て退職を願い、許されて大庄屋役を免ぜられた。

この間、寛政元年五月より文化五年九月まで、庄屋役二十カ年、文化五年九月より天保二年八月まで、大庄屋役二十四カ年の長きに亘って勤務している。実に四十四年間に及んで、地方自治に尽した。

これによって見るに、彼が最初に就任したのは二十才の時であった。いかに先祖代々の役職とは云え、わずか二十才の青年が村長役を勤めたということは、驚異的である。余程しっかりしていたのであろう。

文政十一年という年は「非常の天災」であった。諸人の苦難を取り仕切る五助の責任は重かった。これも彼は、「諸事立入、親切に宰判いたし、御用達を致し」村政を円滑に運ぶことが出来、また村民からも慕われたのであろう。隠居してから六年目の天保八年、田島の辺津宮に参詣した彼は、拝殿に扁額の無いことに気付いた。これを何とかしなくてはならぬと思った彼の胸裡に、新たな情熱が湧き起った。

彼の提唱に賛成する者が多かった。彼の誠心は実現した。

筆者は従二位行中納言藤原顕孝。縦五尺（一・五一五米）、横三尺五寸（一・〇六一米）のもので、現在の扁額がそれである。裏面には献納の趣旨を記した青柳種春の撰文が彫刻されている。

それによると、この国に下る伊勢の廻国御師、藤田長年に話して都の花山卿に揮毫を依頼したが、花山卿が間もなく逝去したので、後に葉室中納言（顕孝）が勅使として伊勢神宮に参向した機会に、藤田長年より申し入れて、実現したものであることが知られる。

この額を五助が奉納する時に、郡中が挙って応援した。奉納については、郡中の繁栄が祈願された。

今も、この額は郡民の信仰と誠心とを象徴するかのようにかかげられている。

候段、（藩庁に）相達し、御沙汰に及び候。これに依って格別を以て二人扶持下され候」と城戸家文書が伝える通り、熱心に職務に励み人の世話をし、面倒を見たのであった。文政十二年に「二人扶持」を賜わったのは、この前年の彼の功績に依るものであった。

彼が大庄屋役を辞したのは六十四才の時であった。天保十四年十二月十四日、七十六才を以て永眠した。

役職を辞して からの彼は、新居を建て、自ら浄水と号して悠々自適した。後を継いだ小三郎とその子、久三郎らを指導することも忘れなかった。

四十四年にわたる勤仕を完了した彼の信条は「敬神崇祖」であった。この心を以て、村政に望んだので、